

お祖師さまをお訪ねする物語

第5回

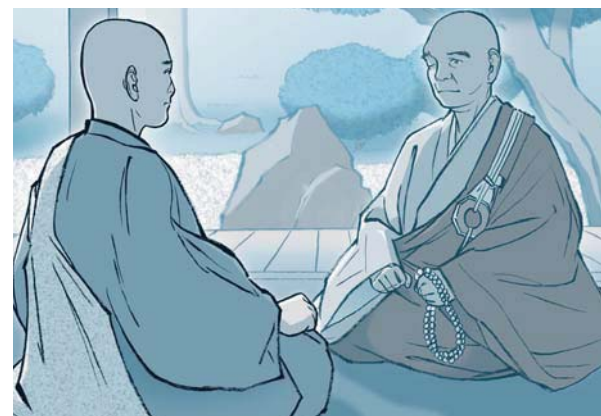


高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

高野山で勉強し、聖徳太子のお墓がある
観福寺で修行されたお祖師さまは、建長二年
(一二五〇)、二十九歳のとき、二年ぶりに京都
に戻られるんだ。今月は京都の東福寺と法華寺
でのお話だよ。

東福寺

東福寺の最初の住職は圓爾という人なんだ。この人は、比叡山や園城寺(二月号を見てね)で修行して、その後、中国(南宋)に渡って六年間も勉強したんだよ。そして、仁治二年(一二四一)に日本に帰ってきて東福寺の住職となったんだ。



お祖師さまは洛南(京都の南部)に住んでいた圓爾を尋ねて色々とお話を聞かれた

お祖師さまも比叡山で修行されたけど、この圓爾の方が、お祖師さまより二十年ほど早く比叡山で修行していたから、お祖師さまの大先輩にもなるんだ。この大先輩からお祖師さまは色々なことを教えてもらったんだよ。

さて東福寺は、延応元年(一二三九)からお寺を作る工事を始めたんだ。だけど圓

爾が住職になったときは、まだお寺は完成していなかったんだね。そこで、お祖師さまは色々とお話を聞かれた。お寺の柱を「有る志(お金や品物を贈ること)されるんだよ。」

この柱は「日蓮柱」と呼ばれていたんだけど、残念ながら明治時代に火事になって焼けてしまったんだ。昭和になって本堂を再建された時に、この「日蓮柱」も復興したんだけど、お祖師さまが「有る志された柱の方が、今の六倍も大きかったそうだよ。」



東福寺の本堂、日蓮柱は本堂内の右側の隅にある

法華寺

建長三年(一二五一)、お祖師さまは東寺(高野山と同じく真言宗の本山)の北門にあった法華堂に滞在して勉強をされていた



復興された今の日蓮柱



日蓮柱を称えた碑で、本堂手前の右側に建てられている

だった。

当時、法華堂の住職は真広法印という人で、東寺の勉強の先生でもあったんだよ。だからお祖師さまも、この真広法印から勉強を教えてもらったんだね。

お祖師さまが、勉強を終え故郷に戻られた後も、お祖師さまと真広法印の交流は続き、三十年後の弘安四年(一二八二)、真広法印は身延にいらっしやるお祖師さまを尋ねて、お弟子になったんだ。

そして、真広法印は、京都に戻ってきて法華堂を法華寺という名前にかえて、お祖師さまの教えを伝えるお寺にしたんだよ。

でも、このお寺は、昭和になって新幹線の建設工事のため、現在地(下京区丹波口駅近く)の島原へと移されるんだね。

お祖師さまは、東福寺と法華堂で勉強された後、比叡山の定光院で一年間修行された近畿地方での勉強を終えられたんだ。そして故郷の安房国(千葉県)に戻られるんだよ。



法華寺にあるお祖師さまが作られたと言われる井戸